

学校規模適正化基本計画（案）に関する説明会 報告書（北小学区）

- 1 日 時 令和8年4月26日（日）10：00～11：00
- 2 場 所 仁井田地区コミュニティセンター大集会室
- 3 出席者 23名（別紙受付名簿のとおり）
神林町長、坂本教育長、岡本教育委員
学校教育課 福田課長、小林課長補佐、渡邊係長
- 4 内 容 開会后、町長挨拶、教育長から計画(案)の概要説明、学校教育課から今後のスケジュール等について説明、その後、質疑応答を行いました。

■質疑応答の概要

○質疑等1

- ・計画の検討が一度保留となったことやその後の検討結果が、この計画に反映されているのか。

（教育長）

・計画（素案）では、4校を1校に統合する方法と4校を2校、2校を1校に統合する方法の2パターンの統合方法について提示しました。令和6年度に1度ストップしたのは、この2パターンの統合方法について、更にもっとよく検討することとしたためであり、特に4校から1校に統合する場合のメリット・デメリットを洗い出すとともに、段階的統合方法との比較をしてじっくりと検討しました。その結果が計画（案）の結論に反映されているところです。

じっくりと検討した結果、少子化が加速する本町の現状からすると、1年でも早く子どもたちの環境を整えたいという考えを優先し、少人数規模ではなく、ある程度の規模を確保したいと考えて、4校から2校、2校から1校の統合方法に至りました。

○質疑等2

- ・中央小と北小が統合した場合の「学校全体での人数」は分かったが、「学年での人数(学級の数)」はどれくらいか、適正人数になるのかを知りたい。

（学校教育課）

・統合した場合の学年の人数については、事前に公表した計画（案）の参考資料8ページにお示ししています。中央小と北小が統合した後の短期推計による人数は、令和10年度時点で1年生24名、一番少ない6年生が16名となっています。概ね1学年（1学級）当たり20名前後となっています。

・補足としまして、中央小については、中学校に進学する際の中学校区が分かれているため、クラスメイトと離れてしまう問題もあるため、今回の統合により、一緒に中学校に進学して学べるようにという意図から、中央小は、北中学区の北小と、阿中学区の阿小に分けて統合する方法としています。

○質疑等3

- ・現在、北中の1年生が1クラス、阿中が3クラス編成となっていて、北中と阿中とで学力の差があると先生から聞いたが、どうなのか。

- ・中学校の統合時期や計画が分かれば、子どもたちにとってもよいと思うので、教えてほしい。

（教育長）

・阿中と北中とで、生徒数やクラス数に差はありますが、学力については歴然とした差があるわけではありません。実績を比較する際、母集団が少ないと、その年によって善し悪しが出るこ

るため、北中の先生はそのような話をされたのではないかと推察します。

・中学校の統合については、小学校の統合以上に難しい課題であると考えています。令和18年度以降の小学校の第2段階の統合に合わせて、検討を進めてまいります。

○質疑等4

・「町役場新庁舎への移転」、「芳賀高根沢工業団地の北側に産業団地の誘致」が進められている。それらの近くに将来的に住宅団地ができた場合に、文教施設が必要となることが予想されると思うが、そういった想定を踏まえて検討したのか？

(町長)

・新庁舎は約2年半後に町民広場のところに移転を予定しています。また、上高根沢の「台の原地区」の産業団地の整備は、令和12年度に完成を予定しています。

ただいまの質問については、土地利用に関わる問題であり、市街化調整区域と市街化区域に分かれている中で、市街化調整区域には簡単に住宅を建設できない状況にあります。これらは県との協議が必要であり、高根沢町の歴史として、農業農村を守る農業振興地域になっている経緯から、この区域を外すことは非常に難しく、大変なことです。

産業団地については、すぐに住宅団地ができるのかといえば、今のところ難しく、長期的に見る必要があると考えています。

庁舎移転後の土地利用についても、住宅団地を建設するようなきちんとした計画が作られてはじめて人口が増加することになります。計画自体が市街化調整区域を外さないといけないため、現在のところ、すぐには人口の増加が考えにくい状況です。

○質疑等5

・予算の集中投下の話の中で、非常勤を増やして学習指導を充実させる話はあったが、学校設備の充実についてはどう考えるか？体育館に冷房がないなどの課題があると思います。

(教育長)

・町としては、ソフト面、ハード面の両方の整備・充実を考えています。子どもたちの教育に直接関わるソフト面の充実に加えて、学校施設・設備、ハード面の整備についても、予算を還元して投じていきたいと考えています。

(町長)

・現在、町内小中学校の体育館にはエアコンがありませんが、今年度、中学校の体育館にエアコンを整備します。まず設計をして工事にかかるため、約1か年くらいかかる予定です。中学校2校のエアコンを整備した後、次年度以降に、小学校体育館にもエアコンを整備していく予定であり、2年後、2年半後くらいになる見込みであります。

・最近の酷暑の影響により外で体育ができないとか、体育館の中も暑くて厳しいなどの現状があり、子どもたちが運動したくても、体育ができなかったり、エアコンのある小さい部屋でやっていたりということがあるので、4校から2校になるのであれば、子どもたちが学校体育館で授業ができる環境を整えていただきたいと思います。

○質疑等6

・計画(案)を確認した中では、統合することにより、「複式学級がなくなる」メリットがあるとのことだった。現時点で高根沢町に複式学級が存在しているのか、統合の計画の時期が遅れることに

よって複式学級が生じてしまうのか、教えてほしい。

(教育長)

・上高根沢小学校では、一昨年まで、複式学級が4年間継続して生じていました。

上高根沢小学校に導入した小規模特認校制度は、上高小の学区外からも通学できる制度であり、平成22年度に複式学級が生じたことにより、複式学級を解消することを目的として開始した制度であります。今後の児童数の推計を見ますと、統合した場合には複式学級が生じる見通しはありませんが、統合しなかった場合には、将来的に複式学級が生じる可能性があります。

・複式学級ではどういった教育が行われているのか。1つの教室に1年生と2年生がいたとして、先生1人で授業をしているのか、お聞きしたい。

(教育長)

・複式学級は、2つの学年の合計が16人以下の場合に作られるもので、2つの学年が1つの教室で、同時進行で授業を行っています。例えば、教室の前を3年生、後ろを4年生と2つに分けて、前の黒板で3年生の授業をして、後ろの黒板で4年生の授業をするといったことが基本的な教え方です。

複式学級の教員は、県の配置基準に従って配置されるため、原則1人の教員が担当し、3年生と4年生を行ったり来たりすることになります。しかしながら、これでは子どもたちの力を伸ばすにはいかなものかという配慮から、町では、非常勤の教員をもう1人配置し、できる限り別々に授業を行っているのが現状であります。教科にもよりますが、1人の先生が2つの授業を行うか、もう1人先生が加わって別々に授業を行うというのが基本的な形です。

○質疑等7

・質問ではなく、要望になりますが、子どもが北小に入学し、1学年12人、統合しても20人とのことであり、4校から1校に統合してほしかった思いはありますが、それを踏まえて、ぜひ中学校の統合を急いでいただきたいことと、小学校の統合を遅れなく進めていただきたいことを要望します。

(教育長)

・要望として承ります。

○質疑等8

・小学校の体育館の整備について、阿小と西小が先で、北小が後になるとの話を聞いたがどうか。

(学校教育課)

・小学校の体育館の整備については、阿小・西小・北小の3校が同じ時期に設計と工事を予定しており、北小だけ後ということはありません。

(記録者：渡邊)